# 研究・調査報告書

| 分類番号 | | 報告書番号 | 担当 |
|---|---|---|---|
| A-133 | | 20-055 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之 |

**題名（原題／訳）**

Parental supply of sips and whole drinks of alcohol to adolescents and associations with binge drinking and alcohol-related harms: A prospective cohort study
親が思春期の子どもに一口や一杯の酒を提供することと、子どもの大量飲酒や飲酒関連危害との関連: 前向きコホート研究

**執筆者**

Alexandra Aiken, Philip J Clare, Veronica C Boland, Louisa Degenhardt, et al.

**掲載誌**

Drug Alcohol Depend. 2020 Oct 1;215:108204. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2020.108204.

| キーワード | PMID |
|---|---|
| 青年、飲酒、コホート研究、疫学、縦断研究 | 32871506 |

**要　旨**

**目的：**子の親や親以外から提供された飲酒量と、飲酒関連アウトカムの関係を検討した。
**方法：**豪州の中学 1 年生 1910 人（12.9±0.52 歳）と親（世帯ごとに 1 人）を対象とした Australian Parental Supply of Alcohol Longitudinal Study (APSALS) のデータを用いた。2010-11 年から 7 年間、質問票またはオンラインにより毎年追跡調査を行った。過去 12 か月の親や親以外（自身も含む）の人から提供された飲酒量を調査し、アウトカムとして過去 12 か月の①大量飲酒（4 杯/回以上の飲酒）、②飲酒に関連した危害の経験、③Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, 4th edition (DSM-IV) に基づく過飲酒による中毒症状の経験（調査 2 年目）、④DSM-IV に基づく 3 つ以上の依存症状の経験（調査 5 年目）、⑤DSM-5 に基づく 2 つ以上のアルコール使用障害（AUD）の有無を調査した。一次分析にロジスティック回帰分析を、二次分析にランダム切片分析を用いて、1 年間の飲酒状況または全提供量と、翌年のアウトカムの関連を年次別に検討した。
**結果：**調査初期の親から子への提供は一口程度が多く、後期では一杯の提供が増加した。親からのみ一口提供があった場合、提供がない場合と比べ、①および②のリスクが高く（オッズ比 [OR]: 1.85, 99.5%信頼区間 [CI]: 1.17–2.91; OR: 1.70; 99.5%CI: 1.20–2.42)、③、④、⑤とは関連を認めなかった。親以外から一口提供があった場合、①のみ関連を認め、リスクが増加した（OR: 2.04; 99.5 % CI: 1.14–3.67)。親や親以外から一杯の提供があった場合、一口と比較して、①、②、④、⑤のリスクが高かった。二次分析では、親や親以外の全提供量が多いほど、全てのアウトカムのリスクが増加した。
**結論：**親から子への一口や多量の酒の提供は有害なアウトカムのリスク増加と関連した。